平成30年2月 9日　支部理事会で承認
平成30年3月16日　本部理事会で承認

第２期中期事業計画　（高岡病院拠点）

Ⅰ．果たすべき役割

Ⅱ．第1期中期事業計画の評価

Ⅲ．第2期中期事業計画の重点項目

１．使命の追求

（１）生活困窮者への援助の積極的推進

①無料低額診療事業、無料低額利用事業の推進

②生活困窮者支援事業（なでしこプラン）の充実

（２）地域医療への貢献

（３）総合的な医療・福祉サービスの提供

２．新たな分野への挑戦

（１）医療・福祉の周辺分野への取り組み

（２）まちづくりへの寄与

３．経営基盤の強化

（１）経営の健全化

（２）医療・福祉サービスの質の向上

①済生会を支える人材の育成

②施設・設備の近代化の促進

③先駆的かつ実践的な経営手法の研究、開発

④スケールメリットを活用した取り組みの推進

（３）積極的経営の推進

４．済生会ブランドの確立と発信

５．コンプライアンスの徹底

６．国際連携の推進

７．災害対策の推進

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅰ．果たすべき役割

当院が位置する高岡医療圏の人口は312,425人（平成27年国勢調査）で、県人口の29.3％を占めている。将来推計人口は、平成27年（2015年）から平成37年（2025年）までに26,941人減少（8.7％減）する一方で、65歳以上人口は増加し、全体の35％ほどを占めることが見込まれている。また、高岡医療圏では高度急性期、急性期、慢性期機能の病床は過剰となり、回復期機能の病床は不足することが見込まれている。

このような中、当院では国の医療機能の分化・連携の方針に沿って、以下のような改革を実行してきた。

1. 急性期病棟54床を「地域包括ケア病棟」へ転換（平成26年10月）
2. 急性期病棟42床を「回復期リハビリテーション病棟」へ転換（平成28年5月）
3. 「回復期リハビリテーション病棟」を40床で運用（平成30年4月予定）

現在、高岡市南部の中核病院として、４機能のうち、高度急性期、急性期、回復期機能を担い、「人工関節置換術（整形外科領域）、内視鏡下手術（整形外科、外科、産婦人科領）、急性心筋梗塞等に対するカテーテル治療 PCI（循環器科）、消化器内視鏡治療（消化器科）、赤ちゃんに優しい病院（産婦人科）など当院の強みを活かした高度・専門医療を提供している。

地域において果たすべき役割

1. 急性期から回復期に至る医療サービスを総合的に提供し、紹介・逆紹 介を通じた病病連携・病診連携を推進し、地域完結型医療に貢献する。
2. 回復期リハビリテーション病棟の機能強化を図り、回復期リハビリテーション領域において県西部の中心的役割を担う。
3. かかりつけ医と連携し在宅療養支援を実施して行く。
4. 高岡市南部地域の子育て支援として、病児保育も可能な開放型保育所開設を目指す。
5. 社会福祉法人である済生会精神を尊重し、無料低額診療事業、生活困窮者支援事業を推進する。

病院運営上の重点目標

1. コンプライアンスの徹底
2. 患者満足度向上と職員満足度向上
3. 教育.研修の充実強化
4. 経営の健全化
5. 質の高い急性期医療と回復期医療のベストミックス
6. 地域医療支援病院の取得　（平成30年/2108年半ば）
7. 訪問看護と訪問リハビリテーションの実施　（平成30年/2018年 4月）
8. 病院機能評価認定更新　（平成31年/2019年）
9. 給与体系を若い職員にとって働き甲斐のあるよう見直し　（平成31年/2019年を目途）
10. 外部CRCを活用した治験事業の取組み

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅱ．第1期中期事業計画の評価

＜平成28年度実績に基づく評価＞

項目	計画	実績	評価
無料低額診療の実施率	11%	10%	未達
なでしこプランの対象者数	120人	106人	未達
5疾病5事業のうち重点的に取り組む分野の実施状況（救急患者数）	2,700人	3,312人	達成
入院患者満足度	4.8点	4.7点	未達
紹介率	48.0%	42.2%	未達
逆紹介率	30.0%	34.0%	達成
医業収益	4,901,930千円	5,084,923千円	達成
経常利益率	−0.8%	4.8%	達成
人件費率	54.5%	52.6%	達成
期末借入金残高	3,653,775千円	3,853,775千円	未達
病床利用率	81.10%	81.10%	達成
入院単価	45,500円	48,530円	達成
外来単価	12,500円	12,546円	達成
職員充足率（医師）	32人	31人	未達
職員充足率（看護師）	201人	215人	達成
離職率（看護師）	7.0%	5.1%	達成
人権に関する研修の実施回数	1回	1回	達成
障害者雇用率	2.00%	1.63%	未達
学会発表件数	32件	36件	達成
ホームページアクセス件数	173,000件	85,358件	未達
広報誌の発行回数	21回	16回	未達

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	１．使命の追求
重点項目名	（１）生活困窮者への援助の積極的推進 ①無料低額診療事業の推進
現状の課題	・無料低額診療事業推進委員会の開催回数を増加（年1回→年2回）し、職員への認知度調査および啓発活動をおこなった。（平成25年度～） ・無料低額診療事業広報活動をショッピングモールで開始した。 （平成25年度～） ・社会福祉士（以下、ＭＳＷという。）が民生委員や地域包括支援センターの会合で事業のアピールに努めた。 　無料低額診療の実施率は、平成25年度11.42％、平成26年度は11.38％と10％を上回ったが、平成27年度は9.80％となった。 ・平成28年度からは、無料低額診療事業対象者の見直し及びＭＳＷによる相談を強化した。 　→事業に占める県承認対象者に頼らず、生活保護者やＭＳＷ減免の対象者の増加に努め、平成28年度は無料低額診療実施率は再び10.0％となった。 ●平成29年度現在、無料低額診療実施率が10％を下回っている。
実施計画	●無料低額診療事業の広報活動を強化する。 　①ショッピングモールでの広報活動を継続するとともに、ＭＳＷによる社会福祉協議会、地域包括支援センター等との情報交換会を開催する。 　②多数の方が集まるイベントを利用して、広報活動を行う。 ●院内の無料低額診療対象者に対して積極的な利用促進を図る。 　ＭＳＷによる退院支援スクリーニングにおいて、経済的項目を追加・確認する。

無料低額診療事業　実施率（病院・診療所）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	10.0	10.0	10.5	11.0	11.0	11.0
実績値						

無料低額診療事業の広報活動回数　単位：回

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	2	3	4	4	4	4
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	１．使命の追求
重点項目名	（１）生活困窮者への援助の積極的推進 ②生活活困窮者支援事業(なでしこプラン)の実施
現状の課題	・ホームレス支援活動とインフルエンザワクチン予防接種事業を実施している。（対象者数　平成24年度48名、平成25年度82名、平成26年度93名、平成27年度97名、平成28年度106名と年々増加） ＜ホームレス支援活動＞ 　毎月MSW、看護師が外に出向いて健康チェックや無料低額診療事業につなげている。 ＜インフルエンザワクチン予防接種事業＞ 　ホームレスや、無料低額診療事業対象者、生活保護者を対象とし、インフルエンザワクチン無料接種券を郵送している。また、福祉事務所にもインフルエンザワクチン無料接種券を渡し、福祉事務所が認めた生活困窮者にも無料接種している。 ●ホームレス支援活動においては、ホームレスが減少傾向にある。
実施計画	●ホームレス支援活動とインフルエンザワクチン予防接種事業を継続する。 　①ホームレス支援活動においては、ホームレスが減少傾向にあるものの、継続して無料低額診療事業、必要に応じて生活保護申請へ結び付けていく。 　②インフルエンザワクチン予防接種事業においては、福祉事務所のみならず、社会福祉協議会、ハローワークなどにもインフルエンザ無料ワクチン接種券の配布・広報を行い、事業拡大を図る。 ●就労・住まい・教育等の新事業についても検討していく。

なでしこプランの対象者数　　単位：人

（ホームレス支援活動とインフルエンザワクチン予防接種事業の延べ人数）

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	120	120	125	125	130	130
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	１．使命の追求
重点項目名	（２）地域医療への貢献
現状の課題	・当院は、高岡市南部地域の中核病院として、高度急性期、急性期、回復期機能を担い、「人工関節置換術（整形外科領域）、内視鏡下手術（整形外科、外科、産婦人科領域）、急性心筋梗塞等に対するカテーテル治療 PCI（循環器科）、消化器内視鏡治療（消化器科）、赤ちゃんに優しい病院（産婦人科）などの強みを活かした高度・専門医療を提供している。 ●高岡医療圏における救急医療、がん治療などの急性期機能の一層の強化を図っていく必要がある。 ●高岡医療圏の公的病院等とのそれぞれの機能を活かした病病連携を図りながら、病床機能の分化と連携を推進していく必要がある。
	（急性期医療） ●高岡医療圏の二次救急輪番病院として、引き続き救急医療の一翼を担っていく。 ●人工関節置換術（整形外科領域）、内視鏡下手術（整形外科、外科、産婦人科領域）、急性心筋梗塞等に対するカテーテル治療 PCI（循環器科）、消化器内視鏡治療（消化器科）、赤ちゃんに優しい病院（産婦人科）など当院の強みを生かした高度・専門医療を推進する。 ●地域連携クリニカルパス（脳卒中、大腿骨頚部骨折及び急性心筋梗塞等）及びがん診療地域連携クリニカルパスの更なる活用に努める。 ●がんを含めた生活習慣病、高齢者の医療を積極的に行う。 ●循環器科において、心臓リハビリテーションの実施及び不整脈アブレーション治療の充実を目指す。 （回復期医療） ●地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟では、在宅復帰に向けての「治し支える医療」の提供に努める。

実施計画	●高岡医療圏のみならず、富山県西部における回復期リハビリテーションの中心的な役割を担い、在宅復帰等の支援強化を行う。 ①回復期リハビリテーション病棟入院料１の施設基準を取得する。 （平成29年12月1日取得済） ②回復期リハビリテーション病棟（現行30床運用）の40床フル稼働を目指す。（平成30年4月予定） ③リハビリテーション医の増員をはかり、体制強化加算の算定を目指す。 ●高岡医療圏の診療所、病院や介護施設等と診療情報を共有し、地域包括ケアシステムの実現に向け、地域完結型医療を一層推進する。 ●高岡医療圏の診療所、病院や介護施設との地域医療連携の強化を図ることにより、平成26年から28年までに再編整備した当院の病床機能（高度急性期病棟、急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟）を、2025年に向けて強化する。 ●在宅医療を推進するために、患者のモニタリング・遠隔監視など、IoT・ICTの活用に向け、情報収集と検討を進める。 ⇒上記の取り組みについては、広報活動と連動し済生会ブランドのPRに繋げていく。また、質の向上を図るために、専門医や認定看護師等の養成・確保に努めるとともに、必要な研修への派遣を行い、院内での体制整備に努める。

職員充足計画（常勤医師）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	33	34	37	39	41	42
実績値						

*臨床研修医を含む。

職員充足計画（看護師）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	220	234	237	238	239	240
実績値						

*看護師の充足計画人数は常勤換算数値である。

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	１．使命の追求
重点項目名	（３）総合的な医療・福祉サービスの提供
現状の課題	●急性期から回復期、在宅へと至る一連の医療サービスを総合的に提供するため、地域の医療機関からの紹介、逆紹介を通じ、医療機関どうしの病病連携・病診連携を深めていく必要がある。 ●地域完結型医療の推進にむけ、回復期機能（地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟）を強化し、在宅医療を担う開業医などの地域医療機関や介護施設等とのさらなる連携強化を図っていく必要がある。
実施計画	●地域医療支援病院の県承認の取得を目指す。（紹介率65％以上かつ逆紹介率40％以上　または紹介率50％以上かつ逆紹介率70％以上） 　地域のかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援（医療機器の共同利用、入院診療）して、病診・病病・医科歯科連携の強化を図り、高岡医療圏における位置づけを強固なものとしていく。 ●入・退院総合支援センターの機能強化を行う。 急性期医療から在宅医療までの患者サービスを提供し、入院時・退院時の相談・調整を一手に担い、患者の増加につなげる。 ●病診連携を推進し、地域包括ケア病棟へのサブアキュート患者の積極的な受け入れを行う。

紹介率　　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	65.0	65.0以上	65.0以上	65.0以上	65.0以上	65.0以上
実績値						

逆紹介率　　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	70.0	70.0以上	70.0以上	70.0以上	70.0以上	70.0以上
実績値						

患者満足度（入院）　　単位：点

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	4.54	4.57	4.61	4.64	4.68	4.71
実績値						

*満点は5点

患者満足度（外来）　　単位：点

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	4.47	4.49	4.51	4.53	4.55	4.57
実績値						

*満点は5点

入・退院総合支援センターの利用者数　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	7,400	11,100	11,800	12,500	13,300	14,800
実績値						

職員充足計画（介護福祉士）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	1	3	5	8	12	14
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	２．新たな分野への挑戦
重点項目名	（１）医療・福祉の周辺分野への取り組み
現状の課題	・平成37年（2025年）における居宅等における医療の必要性（在宅医療等の医療需要）は、高岡医療圏で4,318人/日（平成25年は3,210人/日）と推計されている。 ●在宅復帰した療養者の在宅医療や介護のニーズに対応するため、継続性のあるリハビリテーション体制や医療的ケア等の療養生活を支援するサービスが求められている。
実施計画	●当院からの退院患者を始めとした在宅療養者を支援するため、訪問看護及び訪問リハビリテーションの実施に取り組む。（平成30年4月開設予定） ●患者、利用者、行政のつなぎ役として、「済生会地域包括ケア連携士」を育成し、包括的なサービス提供体制を充実させる。

訪問看護ステーションの訪問件数　　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	-	1,800	2,300	2,700	3,200	3,200
実績値						

訪問リハビリテーションの訪問件数　　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	-	600	900	900	1,300	1,600
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	２．新たな分野への挑戦
重点項目名	（２）まちづくりへの寄与
現状の課題	●当院の道路を挟む北側の地域は、大型ショッピングモールや富山県西部の唯一の新幹線駅を擁する高岡市の商業地域であり、最も開発が進めらている地域である。その一方、当院より南側の地域は市街化調整区域となっており、住宅開発等が規制されている。 ●地域に安心感、安定感をもたらす病院として、地域住民とのつながりを強固にするとともに、雇用創出や居住人口増加等の機能を果たせるように努める必要がある。
実施計画	●当院が高岡市南部地域を中心とした地域完結型医療を推進していくことで、医療を通じた安心・安全なまちづくりに貢献する。 ●これまで地域住民に対して行ってきた健康講座について、その実施拡大を行い、同時に、多種多様な講座を幅広く集中して提供できるよう市民公開講座等の実施を図る。 ●新たに肝臓病、心臓病、腎臓病等の各教室を開催し、地域に開放する。 ●高岡医療圏を中心とした企業健診の受け入れ増加を目指す。 ●「済生会高岡福祉・保育総合センター（仮称）」を設置し、 １．夜間保育機能を有する「地域開放型」事業所内保育の実施 ２．病児保育施設の開設 ３．訪問看護ステーションの開設 ４．医療・介護・福祉関係者の資質向上のための研修施設の設置 ５．通所リハビリテーションについても検討を行う を柱として、高岡市南部地域における医療・介護・福祉を一体的に担う地域包括ケアシステムの構築へ積極的に貢献する。 また同地域における子育て支援と在宅療養者支援を行い、子どもと高齢者が触れ合える場を創設する。

＜健康講座開催件数＞　　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	5	15	20	25	30	30
実績値						

＜企業健診実施件数＞　　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	3,430	3,465	3,500	3,535	3,570	3,610
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	３．経営基盤の強化
重点項目名	（１）経営の健全化
現状の課題	・平成25年度及び26年度は、医師数の減少、消費税の増加、派遣元大学の変更、診療報酬の改定等により2期連続赤字となったが、 ①休床病床の再開、医療圏での位置づけを見据えた病床機能の転換を実施（Ｈ26～28年度） ②常勤の麻酔科医を確保（H28年6月） ③積極的な施設基準や加算の取得及び救急患者受け入れ努力等によるDPC機能評価係数Ⅱの係数増加 ④午後診療時間の拡大 ⑤積極的な地域での出前講座の実施 ⑥「医師の疑似年俸制」の導入 ⑦院長自ら率先した診療材料メーカーとの値引き交渉 ⑧低利資金への借り替えによる支払利息の削減 ⑨医療経営コンサルタントの導入 などの経営努力を実施した結果、平成27年度は 278,923千円の黒字（新会計移行に伴う会計処理を含む）、H28年度は56,461千円の黒字となり、2期連続の黒字経営を実現した。 ●今後、更なる経営基盤の強化を図り、医療圏での位置づけを強固なものとしていく必要がある。 ●長期借入金残高を減らしていく必要がある。 ●開設後23年を経過した病院の各種修繕等が必要である。また、医療機器や電子カルテシステムの更新が必要である。 ●当該年度の費用支出を当該年度の収益で補えるように、キャッシュフローの安定化が必要である。
	●産婦人科、麻酔科、リハビリテーション科等の医師増員、回復期リハビリテーション病棟40床運用に伴う看護師、回復期リハビリテーション病棟入院料１の取得に伴う言語聴覚士等必要な体制を確保し、病棟の効率的な運用、地域支援病院の承認取得、当院の強みを生かした急性期から在宅までの患者サービスの強化等を推進する。 ●経営基盤強化の各種対策(収益アップ、コストダウン等)を実施し、安定的な黒字経営継続のための経営基盤の強化を図る。

実施計画	(1)増収策 ①DPCデータを用いた他院との比較分析力の強化を図りDPC係数の向上、施設基準、加算の取得に努める。 ②地域連携の強化(前方連携の充実等)を行い、地域包括ｹｱ病棟、回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟の安定的な運用を確立する。 ③診療報酬改定について、その都度迅速かつ正確な情報収集を行い、適切に対応する。 (2)経費削減策 ①既に行っているコスト削減をさらに推進し、共同購入やベンチマークを取り入れた委託契約コスト・医療材料調達コスト等の削減を図る。 ●各ワーキンググループが分析・課題抽出、対応策を検討して改善に取り組む活動を通じ、病院を挙げた収益増や経費削減に繋げる。 (1)増収に係るワーキンググループ ①周術期歯科口腔ケア推進ＷＧ ②回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ取得に向けたＷＧ ③地域医療支援病院の県承認の取得に向けたＷＧ ④訪問看護ステーション開設に向けたＷＧ 等 (2)経費削減策に係るワーキンググループ ①入・退院総合支援センター運用ＷＧ ②組織横断型コスト削減ＷＧ（ＶＡＴ）等 ●平成30年4月には看護師･ｾﾗﾋﾟｽﾄを確保し、現在30床運用している回復期リハビリテーション病棟の40床フル稼働を目指す。

入院単価（急性期病棟）　　単位：円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	57,300	57,600	59,900	60,600	62,500	62,500
実績値						

入院単価（地域包括ケア病棟）　　単位：円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	34,300	34,500	34,700	34,700	35,000	35,000
実績値						

入院単価（回復期リハビリテーション病棟）　単位：円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	34,600	36,300	37,500	37,500	38,300	38,300
実績値						

入院単価（全体）　単位：円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	49,200	49,200	50,800	51,200	52,600	52,600
実績値						

病床稼働率（急性期病棟）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	84.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値						

病床稼働率（地域包括ケア病棟）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	83.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値						

病床稼働率（回復期リハビリテーション病棟）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	89.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値						

病床稼働率（ＨＣＵ病棟）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	76.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値						

入院患者数（1日平均）　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	198	219	219	219	219	219
実績値						

外来単価　単位：円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	12,500	13,000	13,000	13,500	13,500	14,000
実績値						

外来患者数（1日平均）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	478	478	478	478	478	478
実績値						

医業収益　　単位：百万円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	5,263	5,697	5,823	5,916	6,026	6,084
実績値						

人件費率（対医業収益）　　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	48.5	48.9	49.1	49.3	49.4	49.6
実績値						

材料比率（対医業収益）　　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	23.4	23.4	23.4	23.4	23.4	23.4
実績値						

医業利益　　単位：百万円

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	331	460	386	455	519	505
実績値						

当期活動増減差額利益率（病院）　　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	3.10	4.70	1.80	2.30	2.60	1.90
実績値						

＊利益/収益総額で算出

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	３．経営基盤の強化
重点項目名	（２）医療・福祉サービスの質の向上 ①済生会を支える人材の育成
現状の課題	・看護職員について、平成27年度より2交替勤務、夜勤専従を取り入れ、多様な働き方が選択可能となった。 ・育児短時間制度の導入により、仕事と育児の両立が出来る職員が増え、看護職員の離職率が低下している。 （平成25年度離職率11.0％ →28年度離職率4.9％ /目標離職率7.0％） ・嘱託職員から正職員への登用または正職員から嘱託職員への切替えなど、柔軟に対応している。 ・毎月第2金曜日をノー残業デーとし、職員のプライベートの時間を確保できるよう周知し実施している。 (医師) ●医師（麻酔科、産婦人科、リハビリテーション科等）を始めとした医療スタッフの確保に努めていく必要がある。 ●平成29年4月より、10年ぶりとなる基幹型初期臨床研修医1名の研修を実施しているが、フルマッチングしていない。（平成29年度募集枠4名） (看護職) ●夜勤要員の確保が困難である。 ●時間外勤務の削減に取り組んでいるが、時間外勤務が発生している。 ●2交替勤務時間が16時間と長い。 (リハビリ) ●言語聴覚士が不足している。 (その他) ●職員数の増加により、休憩室や研修室、更衣室のスペースが不足しており、確保していく必要がある。 ●経営改善や業務効率化のため、職員の一層の資質向上を図る必要がある。
	(医師) ●医師の派遣については大学医局への働きかけを強化していく。 ●初期臨床研修医のフルマッチングを目指し、魅力ある初期臨床研修プログラムを作成し、アピールに努める。

実施計画	(看護職) ●認定看護師（現在９名）等の資格取得支援を引き続き行う。 ●2交替勤務及び夜勤専従職員を確保していく。 ●介護休業等の取得による働き続けられる職場づくりを目指す。 ●交替勤務の拘束時間を13時間以内とするよう検討をすすめる。 ●急性期病棟の準夜勤務を4人体制とするよう検討をすすめる。 ●看護職員について、少なくとも1ヵ月に1回は土曜日・日曜日ともに前後に夜勤のない休日を作る。 ●訪問看護ステーションの利用者を確保し、関係スタッフを増員する。 (リハビリ) ●言語聴覚士を確保（現在3名体制　→ＭＡＸ6名体制）し、リハビリテーション提供体制の充実に努める。 (その他) ●職員が働きやすい職場環境の整備に取り組んでいく。 ●他の医療機関と比較して、若年層にも魅力ある職場となるよう、給与制度や就業規則の見直しを行う。 ●年功序列を基にした給与体系を見直し、子育て世代（20～30代）の給与を相対的に手厚くし、働きがいのある職場であると実感できるようにする。 ●職員の資質向上を図るため、院内研修を充実するとともに、院外研修への派遣や学会発表をしやすい勤務環境を整備する。

職員満足度　　単位：点

	平成25年実施時	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	3.1	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7
実績値						

*満点は5点

認定看護師養成数累計（看護部）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	9	12	14	16	17	18
実績値						

離職率（看護部）　　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	8.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
実績値						

学会発表件数（全体）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	33	38	38	40	40	42
実績値						

学会発表件数（看護部実施分）　　単位：人

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	4	6	6	7	7	8
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	３．経営基盤の強化
重点項目名	（２）医療・福祉サービスの質の向上 ②施設・整備の近代化の促進
第1期計画での整備実績	●第1期中期計画評価 ・高額医療機器購入 実績　（1千万円以上） 2013年(平成25年度)：MRI 3T　更新 2013年(平成25年度)：高圧蒸気滅菌装置　更新 2013年(平成25年度)：X線ＴＶシステム　更新 2015年(平成27年度)：超音波診断装置(心臓）更新 2017年(平成29年度)：CRシステム　更新 ・施設設備整備 実績 2015年(平成27年度)：7階病棟改修工事（回復期リハ病棟転換） ～2016年（平成28年度） 2016年（平成28年度）：7階病棟改修工事（個室改修） 2017年（平成29年度）：各階トイレの洋式化工事（23か所） 正面駐車場の舗装工事
整備計画	●施設・整備の近代化の促進 ・高額医療機器等購入 計画　…　A 2018年(平成30年度)：電子カルテシステム　更新 2018年(平成30年度)：透析装置　更新（3か年での年次計画） 2019年(平成31年度)：核医学診断装置　更新 2020年(平成32年度)：ＣＴ64列　更新 ・施設設備整備　計画　…　B 2018年(平成30年度)：給湯配管改修工事（3か年での年次計画） 2018年(平成30年度)：8階特殊浴室改修工事 2018年(平成30年度)：ダムウェーター（検査用2台、中材用2台）更新 2019年(平成31年度)：医療ガス設備改修工事（3か年での年次計画） 2019年(平成31年度)：HEPAフィルター交換（手術室・HCU病棟） 2020年(平成32年度)：蒸気ボイラー2台更新 2021年(平成33年度)：2階廊下改修工事 2022年(平成34年度)：病院外壁改修工事

単位：千円

	科目	H29年度見込	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
整備計画費用	A　高額医療機器等計画費用	65,000	55,000	109,000	66,000	83,000	83,000
	B　施設設備整備計画費用	－	62,000	50,000	73,000	20,000	40,000
	C　その他の建物付属設備等（修繕含む） ＜年次定額予算＞	30,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	D　その他の医療用器械備品 ＜年次定額予算＞	85,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
	合計	180,000	217,000	259,000	239,000	203,000	223,000

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	３．経営基盤の強化
重点項目名	（２）医療・福祉サービスの質の向上 ④スケールメリットを活用した取り組みの推進
現状の課題	・済生会の共同購入、北信越ブロックの共同購入に参加し、対象物品等の積極的な切り替え、導入に努めている。 ・済生会事務（部）長会の部会活動に広く参加し、知見を広めるとともに、成功事例を自院に取り入れるなどの取り組みを進めている。 ・初期臨床研修プログラムで、グループ病院での研修実施協力体制がある。 ◆済生会福岡総合病院での救急・総合診療研修（2年次3か月まで研修可） ◆済生会松山病院での内科（済生丸による離島診療を含む）研修（2年次3か月まで研修可） ●医師不足による業務多忙を理由として、これまで共同治験に参加していない。
実施計画	●引き続き、共同購入制度への積極的な参加を行う。 ●済生会共同治験事業に参加し、取り組みの推進を図る。 ●CRC（治験コーディネーター）による治験支援を受けて、第二相試験、第三層試験の治験に積極的に参加する。

治験実施件数　　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	0	2	3	3	4	5
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	３．経営基盤の強化
重点項目名	（３）積極的経営の推進
現状の課題	・平成25年度～26年度の二期連続赤字を受け、経営改善に向けて、院長をトップとする「経営改善委員会」を設置し、またその下に「経営改善ワーキンググループ」を設けて、病院を上げての経営改善に取り組んできた。 ・医療機能の分化と連携を推進する地域医療構想を踏まえた当院の位置づけ、方向性の検討を行い、 H26.10　6F病棟（56床）を急性期病棟から地域包括ケア病棟に転換 H27.12　休床中の7F（49床）を復床（急性期　30床） H28.05　７Ｆ病棟を急性期病棟から回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟に転換 など、医療圏での位置づけを見据えた病床機能の転換を行った。 ●地域の医療機関との連携を強化し、当院の位置づけを強固なものとしていく必要があるが、まだまだ連携が弱い。
実施計画	●当院の強みである人工関節置換術等の急性期医療の推進とともに、急性期医療から在宅医療までの患者サービスを提供し、新規入院患者の確保と実入院患者の増加に取り組むことにより、収益の向上をはかる。 ●ジェネリックの採用率を高めることによる薬品費の削減、共同購入の拡充による診療材料費の削減等により、医療材料費の削減に取り組み、適正な材料比率となるように努める。 ●診療・医事・財務のデータを分析し、他病院とのベンチマークを実施し、収益の向上と費用の削減を図っていく。 ●医療の質の向上や経営改善に向けた目標を定めるとともに、目標達成のための病院の方針を明確にし、毎月の責任者会議において職員に周知することで、院内一体となった取り組みを行い、職員の経営参画意識を高める。 ●医師のさらなる確保に努めるとともに、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の多職種連携によるチーム医療に必要な人的資源の確保に努め、医療の質の向上に努める。 ●医療の進歩や地域のニーズを見極め、医療機器や情報システム等の初期投資とランニングコストのトータルバランスに優れた設備投資を行う。

収益総額の対前年増加率（病院）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	4.55	7.65	2.20	1.58	1.84	0.95
実績値						

服薬指導件数（薬剤部）　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	3,500	5,000	6,000	6,500	7,000	7,000
実績値						

後発医薬品率（薬剤部）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	83.0	85.0	87.0	89.0	90.0	90.0
実績値						

*後発医薬品使用量 / 医薬品総使用量で算出

検体検査管理加算件数（臨床検査部）　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	40,366	40,400	40,500	40,600	40,700	40,800
実績値						

超音波検査　検査技師実施件数（臨床検査部）　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	3,342	3,400	4,100	4,200	4,300	4,400
実績値						

特別食加算算定割合（栄養管理科）　単位：％

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	37.0	50.0	55.0	60.0	60.0	60.0
実績値						

栄養指導件数（栄養管理科）　単位：件

	平成２９年度見込	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度	平成３３年度	平成３４年度
計画値	737	800	800	1,000	1,000	1,000
実績値						

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	４．済生会ブランドの確立と発信
現状の課題	・院外広報誌として「たかおか（600部/回　年7回 偶数月と1月に発行」、「地域連携だより（350部/回　年6回 奇数月に発行）を発行している。 ・新聞やテレビに取り上げられる話題づくり（院内コンサート、講演会の開催）増加に努めている。 ・地域健康講座を実施している。 ・病院ホームページを作成するとともに、医学生にむけ、当院の初期臨床研修を紹介するFacebookページを開設している。 ・済生会の精神や当院の理念・歴史を盛り込んだ病院紹介パンフレットを作成し、各種のイベントや学校訪問等で配布している。 ・無料低額診療事業の広報活動やなでしこプラン関連行事で、済生会の使命・活動をアピールし、ブランド確立に努めている。 ●済生会の使命・活動が浸透しきれてない。
実施計画	●済生会の使命を広く伝えるよう、院内広報誌、院外広報誌の紙面充実を図る。 ●月1回以上のホームページ更新等を行う。 ●富山病院とタイアップした「済生会」広報活動に取り組む。 ●無料低額診療事業や生活困窮者支援事業活動を定期的に開催することで、済生会の使命・活動を伝える。 ●済生会を発信する機会である健康講座や市民公開講座等の活動機会を増やす。 ●患者サービスの一層の向上に向け、意見箱の設置拡充や接遇等の院内パトロールの強化を行う。

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	５．コンプライアンスの徹底
現状の課題	・組織のコンプライアンスと説明責任が強く求められる今日、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く要請される中で、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。 ●当院もコンプライアンスマニュアルの整備、および院内職員へのコンプライアンス意識の向上に努める必要がある。
実施計画	●済生会の病院として、また地域の公的病院として、社会的責任を果たし、社会からの信用を得ていかねばならない。引き続き、人権やコンプライアンスの遵守に努めるとともに、「ＩＳＯ26000」に示された行動基準に沿った活動を通じてコンプライアンスを遵守する。 ※別紙『ＩＳＯ２６０００対照表』参照 ●コンプライアンス・ガバナンスの強化を図るため、法定監査を通じて体制の整備を図っていくとともに、中間検査の実施や、支部施設間の相互監査の実施について検討する。 ●年1回以上のコンプライアンス研修を行い、職員出席率100％を目指す。 ●パワーハラスメント、セクシャルハラスメントの防止・予防の取り組みを強化する。

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	６．国際連携の推進
現状の課題	・外国人患者の診療時等、通訳が必要となった場合は、患者の同伴者への通訳依頼、あるいは職員または高岡市国際交流協会へ通訳を依頼することにより対応している。 ●特に休日・夜間の輪番日に通訳対応が難しい場合がある。
実施計画	●通訳機能を備えたタブレット端末等を設置し、活用を図る。 ●喫緊に通訳が必要となった場合、通訳が可能な職員の協力等について、地域病院間で実施可能な体制となるような働きかけを行う。（市内公的4病院長会議等の場を活用

第２期中期事業計画（拠点版）

拠点名	高岡病院

Ⅲ．第２期中期事業計画の重点項目

重点項目区分	７．災害対策の推進
現状の課題	・県災害対策本部医務班の要請による医療救護班の人員派遣と、病院群輪番制病院（第二次救急医療機関）として地域の災害救援活動に関わっている。 ●既存の当院災害対策マニュアルは、病院建物の被災状況に応じた対応や地域防災計画との関連付けが弱い。そのため、病院機能の損失を出来るだけ少なくし、機能の立上げ、回復を早急に行い、継続的に被災患者の診療に当れるようなＢＣＰ（事業継続計画）の考え方に基づいた災害対策マニュアルの改訂が必要である。 ●当院の災害時ライフライン確保のため、 ①電気（自家世発電機で非常用の625KVR　運転時間13時間をカバーしている。） ②水道（主ラインは地下水膜ろ過システム、副ラインは高岡市市水の2系統である。停電時は地下水ろ過システムは使用できない。受水槽には1日分の100トンを貯水している。） ③医療ガス（酸素約3トン） ④食料・飲料水（入院患者用 140人×3食×3日分あり。職員用なし） ⑤医薬品（3日分） ⑥医療材料（2日分） を備蓄しているが、今後充実させる必要がある。 ●当院の立地は、高岡市洪水ハザードマップにおいて、近郊の庄川が大雨によって増水し、堤防が決壊した場合に0.5～1.0m未満の区域となることが予想されている。そのため1階にある非常食保管庫の移設等を実施する必要がある。
実施計画	●BCP（事業継続計画）の考え方に基づいた災害対策マニュアルの改訂を行う。 ①災害により、起こりえる不測の事態を分析し、事前に補うよう備える。 ②BCPチェックリストを活用し、病院の現況を把握し評価する。そして個々のチェックリスト項目のうち、当院の災害対策マニュアルに必要なもの、不要なものを把握し、具体的な改善計画をたてて実行する。 ③ＰＤＣＡサイクルにより災害対策マニュアルを随時改善していく。 ●ライフライン途絶時を想定した院内機器・設備の点検や備蓄品の見直しを進める。 ●浸水対策の必要な場所や機器等について早急に移設等の対応を行う。 ●済生会の災害救援活動必携やブロック病院間での災害発生時の共通必要事項を災害対策マニュアルに盛り込む。 ●災害発生時を想定した防災訓練を年1回開催する。